

相馬市地域農業再生協議会（福島県相馬市）

組織の概要

- 構成農家 1300戸
- 地域農業の振興、産地生産力の強化、農地利用集積、担い手の育成・確保を円滑に図るため、行政と農業者団体等で連携体制を構築することを目的として、H24年に設立。

生産概要

- 【作付面積（本事業取組地域内）】
水稲1,847(38)ha,大豆95(91)ha,麦41(38)ha （R2）
- 地力の低下を抑制し、連作障害を回避するためブロックローテーションに取り組んでいる。（2年3作：大豆→麦→大豆 等）
- 東日本大震災後、法人設立を契機に農地集積を進めている。
- 近年の主食用米国内需要減少を受け、将来を見据えて大豆及び麦の面積を徐々に拡大。
(H24大豆：12ha → R2大豆：91ha) (H24麦：10ha → R2麦：38ha)



取組のポイント

- <団地化の推進>
 - 地域生産者同士の話し合いにより、集落全体の団地化を図る。
- <水田における麦・大豆の先進的な営農技術の導入>
 - 弾丸暗渠施工、心土破碎、深耕の湿害対策技術の導入や土壌診断結果に基づく有機物資材、酸度矯正資材等の施用により、麦・大豆の収量向上を図る。
 - 耕うん同時畦立て播種、小明渠浅耕播種、小畦立同時播種、立毛間播種の導入により、労働生産性向上を図る。
 - 施肥効率の高い幼穂形成期の追肥を中心とした生育後期重点施肥により、麦の収量向上を図る。
- <生産性効率化のための機械・施設の導入支援>
 - リバーシブルプラウ導入による耕起作業の効率化と、トラクタ・ブロードキャスト導入による施肥作業の効率化により、労働生産性向上を図る。



取組成果

- <水田における麦・大豆の先進的な営農技術の導入>
 - 地域内の話し合いにより、転作田を活用し団地化面積が増加
 - ・大豆団地化面積
(R2大豆91ha → R3大豆99ha → **R4大豆95ha** R8目標106ha)
※ブロックローテーションを行っているため現状最大値はR3
(団地化率：R2大豆92.9% → R3大豆93.4% → R4大豆98.9% R8目標93.8%)
 - ・麦団地化面積
(R2麦38ha → R3麦40ha → **R4麦50ha** R9目標51ha)
(団地化率：R2麦92.7% → R3麦97.6% → R4麦98.0% R9目標100%)
 - 耕うん同時畦立て播種、小明渠浅耕播種、小畦立同時播種、立毛間播種の導入により、労働生産性向上を図る。
 - 施肥効率の高い幼穂形成期の追肥を中心とした生育後期重点施肥により、麦の収量向上を図る。
- <先進的な営農技術の導入により、大豆収量アップを実現>
 - 弾丸暗渠施工、深耕等の導入により、排水性が改善されたことで、R4年は大雨等の影響を受けつつも県平均を大きく上回った。
(単収：169kg/10a(R2)→202kg/10a(R3) →158kg/10a(R4) R8目標175kg/10a)
(県平均：135kg/10a(R2)→129kg/10a(R3)→ 130kg/10a(R4))

